

石川広域 輪島市における高齢者の保健事業と介護予防(等)の一体的実施 (R6年度実績)

市の概況	(R6年4月1日)
人口	22,079人
高齢化率	48.9%
被保険者数	8,543人
後期高齢者健診受診率	25.3%
日常生活圏域	2圏域

一体的実施推進連絡会メンバー

- ・輪島市子育て健康課 保健師、管理栄養士
- ・輪島市福祉課 社会福祉士、作業療法士、保健師
- ・市立輪島病院リハビリテーション部 作業療法士
- ・輪島市市民課 事務

健康実態と優先して取り組むべき健康課題(R6年度KDB等から)

○本市の要介護認定の原因疾患の上位が脳血管疾患、認知症、筋骨格系疾患であるが、このうち脳血管疾患と認知症につながる血糖・血圧・脂質の有所見者が、いずれも県より高い数値を示している。

○筋骨格系疾患の予防に関する取り組みとして、通いの場における百歳体操の参加者に体力測定を実施している。結果は維持または改善傾向となっているが、生活習慣病予防に関する視点での介入は行われていない。

⇒本市の後期高齢者においては、生活習慣病の重症化予防、介護予防を目的とした高血圧の対策が必要である。

健康課題解決のための企画・調整等について

【企画調整】

子育て健康課 健康増進係 保健師

【庁内】

・関係課との話し合いの場を設ける

【関係団体との連携】

・輪島市地域包括支援センター
・市立輪島病院

ポピュレーションアプローチ(特調と工夫)

【通いの場での健康教育】

○百歳体操の会場や高齢者サロンなどの通いの場で、生活習慣病の重症化予防やフレイル予防に関する健康教育と健康相談を行う。

○実施内容：血圧測定、健康教育、後期高齢者質問票に回答していただく。

1つの会場に2回介入し、後期高齢者質問票の回答や血圧の値の前後比較をする。

2回目の介入時には、口腔フレイルに関する健康教育も行った。

ハイリスクアプローチ(特調と工夫)

日常生活圏域2圏域で実施

【糖尿病性腎症重症化予防】

○対象者：75～79歳の健診受診者（要介護者を除く）のうち、
①HbA1c7.0%以上の未治療者 ②HbA1c8.0%以上の治療者
または、③糖尿病治療者で国保からの継続指導者

○方法：保健師、管理栄養士が訪問し、栄養指導・保健指導や受診勧奨を行う。

【健康状態不明者対策】

○対象者：お達者訪問対象者リストのうち、保健事業や民生委員活動、
その他の見守り事業等でも生活状況が把握できない75歳以上の高齢者。

○方法：訪問などを行い、生活状態や心身状態を把握し、相談・指導を行う。対象者の状態に合わせて受診勧奨や介護サービスの利用、通いの場への参加勧奨を行う。

輪島市 高齢者の保健事業と介護予防等一体的実施事業 (R 6年度事業結果と評価概要)

		対象者 数	参加者数	評価指標	状況（評価結果）
ハイリスクアプローチ	糖尿病性腎症重症化予防			指導を実施した者の中、指導後にHbA1cが改善した者の割合	令和7年度に完結予定
	糖尿病性腎症重症化予防			指導を実施した者の中、指導後に生活習慣（運動・食事など）が改善した者の割合	
	糖尿病性腎症重症化予防			未受診者のうち、受診につながった者の割合	
	健康状態不明者の把握	18	(訪問者数)18	医療や介護サービスが必要とされる者のうち、医療や介護につながった者の割合	健康状態不明者に訪問等で確認したところ、現在のところ生活に支障なく、医療受診が必要な方は受診していた。
ポピュレーションアプローチ	通いの場等への積極的関与（健康講座、健康教育、サロンでの基本チェックリスト）	—	累計239 (計32会場)	①実施会場数、参加人数 ②後期高齢者質問票の回答の変化、血圧の値の変化	<p>①実施した血圧教室、会場…計32回、22会場 ②後期高齢者の質問票の変化…</p> <p>食習慣(3)…「はい」1回目60人・2回目59人、「いいえ」1回目1人、2回目2人 口腔機能(4)…「はい」1回目26人・2回目31人、「いいえ」1回目38人、2回目33人 口腔機能(5)…「はい」1回目19人・2回目20人、「いいえ」1回目45人、2回目44人 運動(7)…「はい」1回目38人・2回目45人、「いいえ」1回目26人、2回目17人 運動(8)…「はい」1回目13人・2回目19人、「いいえ」1回目50人、2回目43人 運動(9)…「はい」1回目41人・2回目42人、「いいえ」1回目21人、2回目21人 血圧の値の変化については、6ページのスライドを参照してください。</p>
現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスクアプローチについては、令和6年度の後期高齢者健診受診者が評価対象であるため、まだ結果は出ていない。 ・対象者が健診受診者であるため、健診受診率を向上させる必要がある。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ポピュレーションアプローチについては、地震による避難や仮設住宅への入居や利用できなくなった施設があることから、災害前のような活動は難しかった。特に高齢者の閉じこもりや生活習慣病の発症予防のために、災害後に建設された仮設住宅の集会所を利用してのアプローチを行った。 ・高齢者の質問票の回答では、口腔機能・運動ともに良くなった項目はなく、運動面や口腔機能に関する介入も継続していく必要があると思われる。 	

ポピュレーションアプローチについて

主に、輪島病院リハビリ職員が育成した百歳体操グループに介入した。

震災後、応急仮設住宅入居者の認知症に関する相談件数が増加し、輪島病院リハビリ職員による仮設集会所での百歳体操グループの育成が行われた。



血圧測定

百歳体操前に、保健師が参加者の血圧測定を行った。



会場によっては、参加者が自主的に血圧測定や記録をしている会場もあった。しかし、正しく測定できていない方もいたため、正しい測定方法について説明した。

